

# 同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう



山形県中小企業家同友会  
月刊 同友  
やまがた



## 支部総会報告 Part2

第29回 山形支部総会  
第19回 置賜支部総会  
第11回 庄内支部総会

### 食・農部会例会 エネルギー学習会

おらだもエネルギーしてみっか!  
～食とエネルギーは一次産業から～

### 7月増強月間

500名をめざして～会員増強への協力をお願いします～

山形同友会  
創立30周年!  
より地域に  
必要な存在へ!!

2015年度スローガン

## 第29回 山形支部総会

# 同友会に参加して学び、経営者の仕事をしよう

5月19日、第29回山形支部総会が山形国際ホテルを会場に開かれ、62名が参加しました。

第1部の総会では2014年度の活動報告が行われた後、新たに8名を加えた総勢18名の支部幹事を選出。その先頭に立つ支部長には阿部秀顕氏、副支部長には伊藤誠氏、金田史生氏が決まりました。

続いて、阿部支部長が「厳しいのはわかっている…だから一緒に学ぼう！」をスローガンに、同友会らしい経営指針を軸として地域になくてはならない企業づくりをめざす方針を提案し、大きな拍手で承認されました。



## 経営者の仕事とは？

第2部の記念講演では、ハカリの製造・販売・メンテナンスを行っている日東インダ(株) 代表取締役社長 鍋島孝敏氏(宮城同友会代表理事)が、「三位一体の経営で地域に必要とされる企業へ」と題して講演しました。



はじめに鍋島氏は「現在、中小企業の経営者は大変な状況で仕事にあたっているが、経営者の仕事とは何か。緊急ではないが重要な仕事がおろそかになっていないか」と問いかけました。

そして、緊急ではないが重要な仕事は経営者にしか出来ない仕事で、その情報は社外にあるとし、先の仕事づくりや社員のことが話し合われている同友会に参加して情報を得なければならない。そのためには自分がいなくてもよい会社づくりをする必要があることを提起しました。

## 経営指針の共有

鍋島氏は父親が社長を務める日東インダ(株)に後継者として入社。当時は典型的な販売会社で、営業マンの人格は営業成績で決まるという社風でした。

平成7年に同友会に入会した鍋島氏は、平成9年に経営指針を創る会を受講します。理念から方針まで自分一人で作成した経営指針を社内で発表すると満場の拍手を受けます。同友会で「面従腹背って知っている」と言われても「うちは違う」と思っていたそうです。しかし、数年経っても変わりません。幹部社員は社長の前では言いませんが、部下に対しては数字の話だけということが聞こえてくるようになりました。

そこで平成15年「経営指針を創り直す会」を社内に発足させ、社員と一緒に作成します。「お客さんが自社に本当に求めているモノは何か？」をみんなで考えていくうちに自社が売ろうとしているものと違っていることに気づきます。社員は一緒に考えて作成したことで「あの部分は自分達が提案した」と感じます。この過程で会社の理念となり、

方向性を社員と共有することができました。

## 10年後を考えて何をするか

同友会では経営指針・共同求人・社員共育を三位一体の経営と言いますが、科学性・社会性・人間性もあることを説明した上で、社員共育と新卒採用にも取り組んできたことを紹介。

継続して新卒採用した社員が半数を超えた時、会社が変わってきた体験から、鍋島氏は「都度必要な時に中途採用するとパッチワークの組織になってしまう。5年、10年後にどういう組織にしていけるか。一生懸命に理念を説明し、賛同してくれる社員を少しずつ増やし、組織をつくらないと本当の企業づくりにはならない」と強調。

そして「人を採用しないと会社は存続できない。今いる社員はいずれ会社にいなくなる。先を考えて今どうするかです。社員全員で承継していかなくてはいけない。同友会を丸ごと活用しましょう」と語りました。

## 自らを見つめ直して

引き続き行われたグループ討論では、「経営者の仕事とは何か」をテーマに話し合われました。

参加者からは、「経営者の仕事とは何かを改めて考える機会となった。緊急でないが重要な仕事をしていない自分に気づいた。そういう仕事をするために、自分が会社になくてもやっつけていける会社づくりをしたい」

「社長の仕事を大別すると指針・理念、財務、人脈づくり、社員の共育・採用。討論では社長業遂行の阻害要因が社員問題に集中した。社員共育をすすめるのであれば自身を高めるしか方法がない。だから同友会で勉強を進めよう」といった感想が寄せられ、一緒に学び合う2015年度の活動がスタートしました。



## 第19回 置賜支部総会

## 同友会の活動と経営を両輪として強い会社をつくろう

5月27日に招湯苑で開かれた第19回置賜支部総会には、ゲスト参加の金融機関の方も含め29名が参加しました。

冒頭、挨拶に立った長澤支部長が4月27日に2014年度の目標であった50名の会勢を達成したことを報告すると、会場は大きな拍手に包まれました。

総会議事では「これからの変化に備え、対応して生き残る会社になろう！～よりどころとなり、気づきあえる同友会にしていこう～」をスローガンに、2015年度活動方針が決まりました。

そして、支部長には長澤武氏、副支部長には八代昌弘氏、佐藤松雄氏、加賀久也氏と7名の支部幹事を選出しました。



## 支部活動を企業づくりに

記念講演では2004年に発足した白石蔵王支部の㈱シマヌキ建工 島貫勇雄社長とサンダイ工業(有) 佐久間一志社長、宮城同友会 一戸大佑事務局次長を講師に迎えました。

「同友会の活動と経営を両輪として危機を乗り越える企業づくり」をテーマとして、一戸氏がコーディネーターを務め、島貫社長と佐久間社長が同友会に入会后、支部活動をとおり経営指針づくり、共同求人活動による新卒採用、中小企業振興条例制定運動に取り組み、企業づくりを行ってきた体験を報告しました。

## 会社を変える

建築と不動産業の㈱シマヌキ建工は島貫氏が後継者として会社に戻った当時は、アパートや建売住宅の下請の仕事がメインで、予算優先のためにお客さんからのクレームが多く、利益率が低い体質でした。何とかしたいが、どこから始めていいかわからない中で同友会に入会し、経営指針を作成。その過程でアパート建設が減少していくことが分かり、お客様が喜ぶ家づくりに方向転換を図ります。社長やベテラン社員の反対はありましたが、社長になって全責任をとるのは自分と腹を括り、新しい工法へ挑戦し、新卒採用に取り組み、会社を変えてきました。

大手ゼネコンの下請で道路舗装工事をしているサンダイ工業(有)は佐久間氏が入会する前から赤字が続いていました。同友会の例会が終わると返済に追われる日々を過ごしながらかつ佐久間氏は何とか会社をよくしたいと思い続けて経営指針を受講しました。建設不況の時代に売上の70%を占めるお客さんとの取引がなくなります。佐久間氏は雇用を守ることを社員に約束して給料を月給制に替え、「お客様に

喜ばれる仕事をしていこう」と社員に語りかけながら一つ一つの仕事の受注に取り組んできました。また、中途採用から新卒採用に挑戦し、社風を少しずつ変えてきました。

佐久間氏は「少しずつ足りない部分を周りに関わっていく中で見えてきた。同友会の活動を通して変えていく大切さを実感した」と語りました。

## 原点は良い会社にしたいという思い

人口流失が進む中、2010年に中小企業憲章が制定され、2012年から白石蔵王支部でも中小企業振興条例制定に向けての取り組みが始まり、昨年白石市で制定されました。

島貫氏は「同友会に入って10年になります。当時、経営指針づくりで課題としていたことは解決しています。中小企業振興条例も10年後になぜあの時やらなかったのかと思わないようにしっかりやっていきたい」と述べました。

そして、最後に一戸氏が「会社が変わったとははっきり言えます。夜遅くまで話し合ったことが今、形になっている。同友会は知り合い、学び合い、援け合いと言われるが、その真ん中にあるのは企業づくりです。自分の会社、相手の会社をお互い知っているということがベースにないと地域づくりにはいかない。そのことを支部では今も大事にしています。自分の会社をよくしたいという思いから十数年経過して地域を経営するというに関われるようになりました。

ある会員が入会のきっかけは経営難を経験した自社を差別することなく真剣に会社の話聞いてくれたからと語りました。こういう同友会の会風を変えることなく、中小企業経営者の“よい会社にしたい”という純粋な思いが地域を守る一役を担う力になることを信じて、それに賛同する仲間を増やして次の10年に向かっていきたい」とまとめました。

白石蔵王支部の取り組みに学んだ置賜支部では、これから会員が気づきあえる活動を進め、よりどころとなる支部にしていきたいと思います。



第11回 庄内支部総会

# 共に学ぼう！そして「人」「地域」に必要とされる企業へ！



5月28日、第11回庄内支部総会が東京第一ホテル鶴岡において行われました。今回は来賓・社員・ゲストを含め、総勢44名が集いました。

総会に先立って佐藤知志支部長は、「今年には山形同友会30周年、庄内支部は10周年の節目の年、新たなスタートを切り活発な支部活動に取り組みたい。同友会のよい所は、身近な経営者の取り組みや思いを聞き、グループ討論で自分の本音を語り、捉え方の違う他の意見から経営の本質を深めていけること。またグループ発表から他のグループの学びを共有できる。とてもよい学びの場だと思う。特に「人を生かす経営」は、経営者と社員が共に楽しめる環境をいかに作れるかであり、私も自社に持ち帰り様々なチャレンジをしています。今年一年、いろいろな意見をどんどん取り入れながら、同友会型経営の輪を広げていきたい」と挨拶しました。

総会議事では、支部長に佐藤知之氏((有)大山ボデー 専務取締役)が再任され、副支部長に工藤規行氏(㈱工藤 代表取締役)、小寺祐也氏((有)寝装こでら 代表取締役社長)を含めた11名の役員が決まりました。

また、方針として、「共に学ぼう！そして「人」「地域」に必要とされる企業へ！」をスローガンに、「よい企業づくり」「よい支部づくり」「よい仲間づくり」を3つの柱として、新たに「企業変革支援プログラムの活用」「例会のワンゲスト運動の実施」などの取り組みが決定しました。

引き続き行われた記念講演では、「私を育ててくれた反面教師たち」と題して、キャド・キャム(株) 代表取締役 齋藤士郎氏が講演しました。

大学卒業後、地元の建設関係の会社に入社した齋藤氏は、当時よく怒られていたと過去を振り返りました。そこで学んだのは、社員が社長に対し尊敬や信頼がなければ、反発や裏切りしかでてこないと述べました。

また、次の職場の所長は、クリスマスに自腹でチキン Grillをスタッフ全員にプレゼント、自分もそうなりたと思いました。その次の建材屋社長は儲かっているわりには軽自動車を乗り尊敬できるケチだったなど等、社員からみた社長像の土台を築いてきました。

その後、建築の図面を書きたいと平成元年に現在の会社に就職、今年で27年目。入社したときは社員が4~5人、バブル期に入って仕事が増え、齋藤氏が社長就任時には30人。現在は正社員84人、アルバイトが約10名まで増えています。

キャド・キャム(株)は床の設計に特化した業務をしています。誰もが一度は名前を聞いたことがある、大手ビル・テーマパーク・病院などを手掛けました。

齋藤社長は「ここまで大きくなったのは、私の力ではなく社員が一生懸命だから」と語ります。

平成16年、突然前社長が亡くなり、会社の存続にかかわる問題に直面します。不安いっぱいの中にも、社員の一生懸命さ、お客様からの信頼に社長になることを決意。当時は社員にも心配や迷惑をかけながら、それでも一丸となって頑張り、数年で黒字経営に転換しました。

女性社員が7割という中、子連れ出社が認められていたり、社員旅行には子供を無料招待。男性の育児休暇や退社後の再入社を歓迎したりと、「女性が安心して働ける職場」・「男女共に長く勤められ、お互いに成長する職場」に取り組んでいます。これが認められ「山形いきいき子育て応援企業」の認定や、「山形県ワーク・ライフ・バランス優良企業知事表彰」を受賞しました。

そうした中でも「社長は孤独だなんて感じます。昨日まで社員とワイワイやっていた、社長になったらワイワイしてくれなくなった」と話しながらも、「社長と社員の高さの違いって違和感がある、社長と社員の高さは一緒なのが理想」と述べました。

最後に課題として、東京オフィスの例を紹介しました。ある時、問題の多かったこのオフィスの責任者数人を突然解任。大変混乱しましたが、社長の思いとしては「リーダーとして引く張るだけでなく、本人が会社でよりよく生きる道、貢献できる道がどこかにあり、裏方でもいいから社員の為、後輩たちの為に何ができるかを理解してほしい。あなたの生きる道は他にもあるんだよ」と、当時のメッセージを披露しました。

自由でフラットに感じる齋藤社長の経営の中に、しっかりした「人を生かす経営」を学ぶことができました。

参加者からは「齋藤社長は社員の頃の気持ちを忘れず、尊重して経営していると感じた」「女性が活躍できる職場を作られている点、参考になります」「社長と社員の垣根をどのように除くことができるか、改めて考えさせられた」との声がよせられました。



# おらだもエネルギーしてみっか! ~食とエネルギーは一次産業から~

6月11日、食・農部会主催のエネルギー学習会が山形テルサで開催されました。

継続したテーマ、「おらだもエネルギーしてみっか! ~食とエネルギーは一次産業から~」の第3弾。今回は実際の取り組みから、農業の本質をさらに掘り下げることをポイントに、「シリーズ『やってみたら こうなった』編」をサブテーマに、パネルディスカッション形式で行われました。

コーディネーターに㈱ソーラーワールド武内社長、パネラーとして㈱平良農園佐藤社長、㈱山形ピッグファーム阿部社長を迎え、「なぜ農業が自然エネルギー事業なのか?」を深めました。また、後半は参加者全員を交えたフリートークの場となり、会場全体が一つとなり、農業と農業者の存続の大切さを改めて感じました。



## パネルディスカッション

**武内氏:** エネルギー事業を始めたきっかけは?

**佐藤氏:** 10年前の36歳で新規就農しました。最初はグローバルな農家を目指し、切磋琢磨し米の品評会で日本一になったこともありました。ですが儲からないのが現実です。1アール当たりの米の売り上げは1万円弱、経費は1万円かかります。その他様々な農作物も作りました。シルバー人材を雇用しながら作った大根1tの売り上げは2万円、人件費は20万円かかり、農業の難しさに頭を抱えていました。そんな時に「第2の米」との触れ込みの、農家の風力発電の話聞き、興味を持ったのがきっかけです。現在自然エネルギーの取り組みは、ソーラー発電とストーブ用の薪販売、ペレットストーブの販売をしています。

**阿部氏:** エネルギー事業だけで生活できるのでは?

**佐藤氏:** 新規就農なので農業に対して悲観的感情はありません。自然の営みの中で生活していればとても楽しいと感じます。しかし楽しい農業をやるには、農産物だけでは時期的や経費的な問題があります。結果的には、農業と農村を活かしながら生きていきたいのが私の思いです。農山村の過疎が問題になっていますが、エネルギーで利益を上げて自分だけが生活できても、農山村が消滅しては意味がありません。

**武内氏:** エネルギーで得た収入を農業に循環できるのか?

**佐藤氏:** 私の考える副収入は、複収入です。太陽光で100kw、年間400万円の収入が目標です。複収入で400万円あれば生活が安定し、農業が楽しくできるだろうと感じます。ですが私の根本は農家をしたいのではなく、農村で生きていきたい、儲かる農村にしたいというものです。そう考えたときに、そこにある資源を有効に活用するエネルギー事業は外せないと思います。しかしエネルギー基地を作れば良いというわけではなく、あくまで田んぼに適したところは田んぼ、畑は畑、エネルギーはエネルギーと、適地適作が良いと思います。何年か後に、子供たちが農業を継ぎたいと言っ

てくれたら、自分がやってきたことは間違いなかったと思いますし、そういわれる日を夢見ています。

**阿部氏:** 減反して遊ばせている農地が沢山ありますよね?

**佐藤氏:** 補助金もある意味害になっていると思います。実際、補助金ありきの決断をしている方々がいます。補助金の代わりに、自然エネルギーを農家の権利にすれば、多くの農家がエネルギーを農地利用として取り組むだろうと思います。国の農業補助金は年間約4兆円ありますが、農家は楽になっていません。

**阿部氏:** 経営資源としての農地はたくさんあるんですけど、活かせるかどうかですね。

**佐藤氏:** 昭和の農業者は600万人おり、優良農業地だったんです。今は200万人に減りました。人が少なくなってきたから、まわせないという現実もあります。それが一番の問題だと言えます。

**武内氏:** 佐藤さんのビジョンは何ですか?

**佐藤氏:** ヨーロッパの自然エネルギー事業をしているリング農家と出会いました。その方が「20年後、子供に『お父さん原発が危ないのを知っていて、化石燃料がなくなるのを知っていて、なぜ何もしてこなかったの?』と言われてたくないからやっている」との言葉に感銘を受けました。農業振興は農村振興、農村振興は地域振興です。自然エネルギーも地域振興であると思います。地域を良くするためには、収入が上げられて生活ができて、さらに住みやすい環境を作っていく必要があると思います。



7月  
増強月間

# 500名をめざして ～会員増強への協力をお願い～

組織委員長 安藤 昌則



組織委員長を仰せつかっています、(株)アドクリーンの安藤です。

今年度は30年の節目となる年です。4月の定時総会では会勢500名の目標が決まりました。来年1月21日に開催される30周年記念式典には組織委員長として500名の目標を必ず達成したいと思っています。

現在、各支部では目標を掲げ、入会対象者のリストアップ、例会へのワングスト運動に取り組んでいます。6月24日には新庄最上支部が設立され、500名に向けて大きく前進します。

私もそうでしたが創業間もない経営者には、先輩経営者の実践報告から多くの経営のイロハが学べます。また、会員が増えることで、同友会理念のもとに会員同士のお取引や業務提携のチャンスも増えます。

7月は増強月間です。会員の皆さまよりお知り合いの経営者のご紹介をいただきたいと存じます。「入会対象者ご紹介カード」をご記入の上、事務局へ送っていただきますようどうぞご協力よろしくお願い申し上げます。

## 2015年度各支部目標

支部名	目標	6月末会員数
山形	230	208
寒河江	65	56
さくらんぼ	65	51
置賜	60	50
庄内	65	51
新庄最上	30	17
	515	433

## 新会員紹介

### ◎鈴木 一博氏

(株)ヤマテレ 取締役専務  
業種 電気通信工事業  
山形支部

### ◎柿崎 和朗氏

(株)新庄・鈴木・柴田組  
代表取締役  
業種 建設業  
新庄最上支部

### ◎叶内 恵子氏

(株)北国ホーム 代表取締役  
業種 宅地建物取引業  
新庄最上支部

### ◎郷野目 一彦氏

(株)郷野目ストア  
代表取締役社長  
業種 小売業(スーパー)  
新庄最上支部

### ◎小屋 茂氏

ペイント倶楽部 代表  
業種 看板・塗装・  
リフォーム、塗り替え・  
書き換え専門  
新庄最上支部

### ◎佐藤 昭彦氏

(株)佐藤運送 代表取締役  
業種 運送業  
新庄最上支部

### ◎佐藤 奈緒氏

厨ダイニング 代表  
業種 飲食業  
新庄最上支部

### ◎柴田 慶一氏

司法書士 柴田事務所  
代表  
業種 不動産・会社に関する  
登記手続き、裁判所に  
提出する書類作成等  
新庄最上支部

### ◎鈴木 富士雄氏

最上峡芭蕉ライン観光(株)  
代表取締役社長  
業種 観光船の運航、  
ドライブイン事業  
新庄最上支部

### ◎田中 栄造氏

(株)山形チャレンジ工業  
代表取締役  
業種 鋼製建具・  
アルミ製建具・  
建築金物・  
シャッター工事の  
設計施工  
新庄最上支部

### ◎田中 雅樹氏

(有)グリーンショップ花恵  
代表取締役  
業種 生花販売業・  
生花加工卸業  
新庄最上支部

### ◎永井 敏行氏

永井建設(株) 代表取締役  
業種 建設業  
新庄最上支部

### ◎永田 勇氏

(株)ヤマトテック 常務取締役  
業種 電気メッキ加工  
新庄最上支部

### ◎沼澤 紘一氏

(株)ヌマガワ 常務取締役  
業種 葬祭業  
新庄最上支部

### ◎沼澤 貞義氏

(株)沼澤工務店 代表取締役  
業種 建設業  
新庄最上支部

### ◎涌井 洋一氏

共栄印刷(株) 代表取締役  
業種 印刷業  
新庄最上支部

## 支部・会員名・企業名・役職変更

●(株)ステップアップコミュニケーションズ(山形支部)  
取締役 高橋 諭氏⇒取締役 矢口 淳氏 に変更

●ヘア&フェイスサロンアルテモダヒロコ(さくらんぼ支部)  
代表 伊藤宏子氏⇒新庄最上支部 に変更

●(株)さくら野コーポレーション(さくらんぼ支部)  
代表取締役 高橋進一氏⇒新庄最上支部 に変更

●(有)池内環境サービス(置賜支部)  
専務 池内義明氏⇒代表取締役 に変更

●セロン東北酒田支社(庄内支部)  
執行役員庄内・最上地区統括部長 菅原政久氏  
⇒片倉 登氏 に変更

# 7月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

## 山形支部

### 仲間を深く知ろう!お悩み解決! わいわいビアパーティー

2015.7.16(木) 19:00~

場所:パレスグランデール

山形市荒橋町1-17-40 ☎023-633-3313

参加費:6,000円

7月例会は、より深い関係(仲間)を築き、同友会で共に学び、共に成長するための例会として、わいわい楽しみながら仲間を作ってあげば、普段は言えない経営の悩みや苦勞、未来への夢を語り合える、「同友会を活かそう」という、例会です。

今回は例年と同じビアパーティーですが、会場内に企業案内パンフレット設置ブースを新設しますので、希望者の方はパンフレットなど(大きくなければ商品でもOK)を持参下さい。

さらに、事前に今困っていることのアンケートをお聞きして、問題解決シートを作成します。会場内でこれを見ながら、飲みながら、問題解決のお手伝いができる企業さんが積極的に話していただきたいと思います。「それならこんな会社あるよ」「うちでこれできるよ」「うちの専門って実はこれなんだ」など、飲みながらも会社を想うビアパーティーを開催します。

## 寒河江支部

### ビアパーティー

2015.7.22(水) 19:00~

場所:そば処七色 寒河江市幸町1-7 ☎0237-85-6667

参加費:4,000円

寒河江支部7月例会は、毎年恒例のビアパーティーです。

同友会には「よい会社になりたい」「地域を元気にしたい」という思いを持っている方がたくさんいます。顔を合わせれば、声を掛け合える仲間がいます。

「今後の方向性」「社員の雇用や教育」「業界のこと」「課題」など、日頃考えていることを冷たいビールを飲みながらざっくばらんに語り合います。何気ない会話の中に明日へのヒントがあります。

ゲスト参加も大歓迎!お誘い合わせの上、ご参加ください。

## 置賜支部

### ビアパーティー

2015.7.23(木) 18:30~

場所:なみかた羊肉店 米沢市東2丁目1-30 ☎0238-24-6887

参加費:4,000円

置賜支部7月例会は毎年好評のビアパーティー!会員の皆さまの「よりどころ」をめざして3年目となる置賜支部では、会員同士がつながりを深め、顔と企業が見える支部をめざしています。ビアパーティーはお互いを知り合い、交流を深める絶好の機会です。

経営者の熱い思いが企業と地域の未来を切り拓く鍵です。明日の経営の種を持ち帰りましょう。どなたでも参加できます。お誘い合わせの上、ご参加ください。

## 庄内支部

### 経営指針作りのススメ!!

~自分の殻を破る!自分への挑戦!~

2015.7.22(水) 18:30~

場所:鶴岡市総合保健福祉センター「にこ♥ふる」

鶴岡市泉町5-30 ☎0235-25-2731

報告者:(株)板垣水道 代表取締役 板垣一紀氏

久しぶりに参加した例会で、勧められるまま勢いで「経営指針をつくる会」に参加。しかし自分が気を抜くと会社全体の意識が弱くなり、理想とする経営と何かが違うことに気付き始めていた頃です。「以前からその時々で揺れる自分を感じながらも、色々なものを力で押さえつけながら引張ってきた」と語る板垣社長。「第19期経営指針をつくる会」の受講を通して、自分、会社、社員、お客さま、地域などをゼロから見つめ直し、助言者の方々の叱咤激励を頂き、「弱い自分に挑戦する事ができた」といいます。板垣社長の奮闘する体験報告を通して学び合います。お知り合いの経営者の方をお誘いあわせて、是非ご参加ください。

## さくらんぼ支部

### 夢の実現のために

~社員の笑顔が心月の未来~

2015.7.23(木) 18:30~

場所:タントクルセンター 2階 ミーティングルーム

東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者:心月 代表 井上福寿昭氏

東根市に店をオープンして6年。地元の食材を活かした驚きのある料理は口コミで広がり、約8割のお客さんがリピーター。お喰い染め、誕生日、結婚記念日など、家族の特別な日に利用していただけるようになりました。「また来たい」と思ってもらえる、月明かりのようなやさしいおもてなしを大切にしています。

飲食業界は3Kといわれ、30代40代の子育て世代の職人の定着が課題。親方社会の厳しい世界で鍛えられ、いい先輩、上司のもとで働いてきた経験から、人(仲間)のことを思って働ける職場、楽しい職場が、井上さんの一番の思いです。

社員一人ひとりが主役と語る井上さん。育児休暇がとれる会社にし、将来、農家レストランをつくりたいと夢を熱く語っていただきます。

## 新庄最上支部

### 経営理念が教えてくれたこと

2015.7.29(水) 18:30~

場所:新庄市民プラザ 新庄市大手町1-60 ☎0233-22-4200

報告者:(有)寝装こでら 代表取締役社長 小寺祐也氏

10年前、経営者である父親が急に他界し、何の準備もなく会社を継ぐことになりました。リーダー不在同然となり方針を示せない会社は、当然のように混乱しはじめます。悩みの中でたどり着いた自分の答えは、「経営理念を作ろう」でした。同友会に入会、第16期経営指針セミナーを受講し、指針書を作成。経営者としての不足している多くの点に気づかされ、自分を見直し、会社の「大変革」を実行します。指針書に基づいた経営に取り組み、方向がはっきりした会社の業績は見事に回復、社内のムードも一変します。しかし「大変革」の裏には、新たな決断により手放した多くの事がありました。経営理念を作り、新たな道を歩みだした当社の取り組みを報告させていただきます。

# 第3回理事会報告

◆日時: 6月10日(水)午後2時~午後4時 ◆会場: 産業創造支援センター 1F マルチメディアホール ◆議長: 菅原副代表理事  
◆出席: (敬称略) 青柳等、阿部敦、阿部和人、阿部秀顕、安藤昌則、伊藤誠、大場賢二、奥山正樹、金田史生、川合勝芳、西塔秀幸、齋藤志直、佐藤一夫、庄司薫、白鳥明美、菅原茂秋、若木義寛、(事務局) 伊藤由紀子、矢作聖子、高橋徹 合計20名

## ■開会挨拶(西塔代表理事)

### ■報告事項

1) 中同協関連について、西塔代表理事が報告。

① 中小企業憲章・条例推進月間キックオフ集会(6/2)が、衆議院第一議員会館にて開催。

39同友会、中同協から163名、36名の国会議員が参加。「中小企業が日本経済を支えている」との発言が多かったと感想を述べた。

② 北海道東北ブロック代表者会議(6/3)

2015年北海道東北ブロック支部長・交流会(10/8~9 秋田わらび座) 参加目標10名

③ 中同協第4回幹事会(6/3) 中同協分担金(団体割)値上げの件など。

2) 2015年度5月月次決算報告(伊藤事務局長)

### ■承認事項(入・退会承認) 16名入会 3名退会 6/10現在会員数 433名

### ■討議事項

#### 議題1: 第31回定時総会のまとめについて

伊藤実行委員長より、今回の特徴を説明。30周年を迎え新たなステージへと進む土台づくりができ、外部からの同友会への期待をこれまで以上に感じたこと。記念講演より、継がせたい、継ぎたくなくなる会社づくりの大切さを学んだことなど4点にまとめた。収支報告の提案があり、承認された。

#### 議題2: 新庄最上支部設立総会について

齋藤専務理事より、6/24日の開催要項が提案され承認された。総会を60名の参加者で成功させたいと参加依頼があった。

#### 議題3: 会員増強の取り組みについて

安藤理事より、6/17増強デー、7月増強月間の取り組みの提案があった。対象者リストの提出状況を報告し、6/15まで提出することを確認した。6/16に組織委員会で紹介者リストをチェックし、担当者の振分をし、増強デー、7月増強月間の活動に活かしていく。

新会員オリエンテーションについて、下記の5点を確認した。

- ① 受講が義務であることをお知らせする。同友会バッジが渡るようにする。
- ② 案内(e. doyou, FAX)のほかに、電話で直接参加を呼び掛ける。
- ③ オリエンテーションには、新会員の紹介者にも参加してもらう。
- ④ 支部の要請があれば、支部開催を検討する。
- ⑤ 同友会の歴史・理念の説明を常任理事が担当する。

西塔代表理事より、支部が増えることにより組織変更があり、新会員オリエンテーション用新DVD作成の提案があり承認された。

#### 議題4: 2015年度役員研修について

西塔代表理事より、開催要項の説明、講演テーマ、タイムスケジュール、役割分担、学びのねらい、グループ討論テーマ等の提案があり、承認された。

① 学びのねらい: 困難に立ち向かう同友会型企業づくりを学ぶ。同友会役員としての役割を学ぶ。

② 討論テーマ: 同友会活動を自社の発展にどうつなげていきますか。

#### 議題5: 会費改定の告知について

西塔代表理事より、全会員への会費改定の告知について提案があり、文章「会費改定のお知らせ」を月刊「同友ニュース」7月号同封とe. doyouの掲示板にアップすることを決定した。

#### 議題6: 「中小企業憲章・条例学習会」について

地域活性委員会副委員長の奥山理事より、開催要項等の提案があり承認されました。

### 1) 開催日時

● 日時: 8月5日(水)13:30~17:00

● 会場: 遊学館 3F

● テーマ: 中小企業の活力で、もっと元気な山形に!

● 企画: パネルディスカッション

### 2) 米沢市中小企業活性化講演会の案内と参加依頼がありました。

● 日時: 2015年7月11日(土)13:30~15:20

● 会場: 米沢市すこやかセンター(大会議室)  
米沢市城西一丁目5番60号

● 講師: 慶応義塾大学経済学部 教授 植田浩史氏

#### 議題7: 第27回社員教育活動全国研修・交流会について

阿部理事が開催要項・開催目的、開催地目的について報告。記念講演のテーマ・タイムスケジュール、分科会報告者の紹介があり、山形同友会で第3分科会を担当し、(株)大山ボデーの佐藤専務が報告。

#### 議題8: マイナンバー制度の学習会について

西塔代表理事より、開催要項の提案があり、下記の内容が決定した。

##### 1) 開催日時

● 日時: 2015年7月13日(月)18:30~21:00

● 会場: 山形テルサ 3F リハーサル室 (会場代 6400円)

● 講師: 奥山税理士事務所 税理士 奥山享氏  
社会保険労務士法人西塔事務所 代表社員 西塔秀幸氏

##### 2) 参加費: 1000円(会場代、資料代として)

### ■討論: 会員増強の意義について

はじめに安藤理事より、山形同友会の活動方針、組織方針、中同協議案書の説明。目標達成のために、なぜ、役員が先頭に立つことが重要なのか、何のために増強が必要なのかと問題提起があり、「会員増強の意義」について話し合った。

#### 議長のまとめ

1) 理事が、同友会の活動をとおり、自社の変化や成長など経営体験の語り部になる。

2) 会員増強の取り組みとして、

① 対象者リスト300名を集める。最終的に100名の純増にする。

② 毎月、紹介者カードをあげていく。

③ 理事会で進捗状況を確認する。

3) 増強の意義について、欠席された理事に伝え、全体の増強の気運を高めていく。

4) 増強の取り組みについて、例会等で会員にも訴えていく。

5) 地域がなくなりかけていることを認識し、地域存続のために、よい企業づくりをすることで解決していこうというのが、一番の同友会の志です。企業がなくなるとは地域が存続しない。会員数が増えることで、行政への同友会の発言力が増していく。

### ■その他

1) 第1回委員会合同会議の開催 (3カ月に1回開催予定)

・7月8日(水)12:30~13:45 理事会前) ・会場: 産業創造支援センター

2) 中同協総会(岩手 7/9~10)の参加について 目標: 20名

3) 第4回理事会日程

● 日時: 7月8日(水)午後2時~午後4時

● 会場: 産業創造支援センター

### ■閉会挨拶(青柳副代表理事)

## 同友やまがた7月号(2015年7月1日発行/通巻268号)

From Editor

★早いもので、1年の半分が過ぎました。日の長さをありがたく感じながらも、時間を消化しているような忙しさが日常化し、身体が悲鳴を上げ、ここ数年、近所の病院にお世話になっています。先日、半年ぶりに通院したところ、待合室は予想どおりもう高齢の患者さんがいっぱいでした。そこで、どこかで見かけたことがあるご婦人が目に留まりました。★次々とはいつてくる患者さんや病院のスタッフに「おはようございます」と元気に挨拶をする気配り、心配りは昔のままで。隣の人と話をしていたこともあり、声を掛けるタイミングを待って、「〇〇さんですよ」と声をかけたところ、あらあとすぐ気づいてもらいました。★Kさんとしましょうか。Kさんは、会

員企業のA社で経理担当として長く働き、いつも明るく元気な方で、ネクタイをきりっとしめて働く姿はキャキリアウーマンそのもの。電話対応はもちろん、訪問すれば、必ず名前を呼んで声を掛けていただきました。★「お元気そうですが、どこが悪いのですか」との質問に、血圧の薬をもらいに来ているとのこと。「会社を辞めて何年になりますか」「もう10年になるのよ」。当時と全くかわらない様子に、思わず年齢を聞いてしまいました。85歳と聞いてただただびっくり。当然退職時は75歳。その年齢まで雇用していた会社も素晴らしいのですが、生涯現役で働けるパワーに思わず「目標にします」と言ってしまいました。思わぬ再会に元気をいただきました。(由)



“知り合い、学び合い、援け合い”  
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号  
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583  
URL:<http://yamagata.doyu.jp/> E-mail:[info@yamagata-doyu.jp](mailto:info@yamagata-doyu.jp)